

Ro  
g  
A~

# 文京区立 森鷗外記念館NEWS

## No.35

### 目次

巻頭コラム「墓前の献花—鷗外—〇〇回忌に寄せて—」倉本幸弘(森鷗外記念会常任理事)／展示会場から／ショッピング便り／開催中の展覧会 特別展「觀潮樓の逸品—鷗外に愛されたものたち／展示のお知らせ コレクション展「生誕110年・没後30年 森類—ベンを執った鷗外の末子」／コラム「鷗外の多才ぶりに支えられる連載」須藤唯哉(毎日新聞学芸部記者)／活動報告／カフェ便り／編集後記／これからの催しもの」



森類(千葉書房店内にて) 1950年代頃

2022年に、鷗外生誕160年・没後100年を迎えます!





鷗外の多才ぶりに支えられる連載

取り上げながら、それぞれ独自のテーマで

「毎日新聞」に、2019年4月より毎月  
1回(現在は第一・日曜朝刊)「今よみがえる

「森鷗外」が連載されています。毎回、筆者と  
テーマを変えて、現代の視点から鷗外を読  
み解くシリーズとなつており、これまで作  
家、詩人、歌人、研究者など様々な分野の方々  
が、独自の視点で鷗外や鷗外作品について  
書き下ろしています。当館では資料提供等  
の協力をしています。本号では、担当記者  
の須藤唯哉氏にご執筆いただきました。

毎日新聞の連載「今よみがえる森鷗外」は、今年4月で3年目に突入しスタートします。回数は間もなく30回を迎えます。実は

朝日新聞が夏目漱石を起用した話は知られていますが、それに対抗して、毎日新聞との前身である東京日日新聞、大阪毎日新聞は1916(大正5)年から鷗外の『濫江抄斎』など史伝を連載しました。毎日新聞とそのような縁のある鷗外が2022年に没後100年を迎えることから、その年を盛り上げようと、「今よみがえる森鷗外」は前任の文芸記者が企画し、スタートしました。

この連載を担当していく、つくづく思うのは、作家と軍医の一足のわらじにとどまらない鷗外の多才ぶりです。帝室博物館総長(現在の東京国立博物館館長)や東京美術学校(現在の東京芸術大学美術学部)での教鞭、歌人や詩人としての功績、西洋文学の翻訳など、その幅広い活動を挙げたら切りがありません。だからこそ、鷗外の作品や人物はさまざまな切り口から論じることができます。それが、この連載を続けられる大きな要因になつていています。

正直に告白すると、私は鷗外について詳しいわけでもなく、特別な興味関心があつたわけでもありません。中学生か高校生の時に授業で『雁』や『舞姫』を読んだことぐらいしか、記憶にありません。連載の担当者として鷗外の作品や関連資料に触れ、「こんなにどっぷりと鷗外につかるとは思わないしか、記憶にありません。連載の担当者のかつた」というのが、偽らざる本音です。そのため、『雁』を改めて読み直した時には、終盤の雁の死に思いを馳せることができなくなつたかつての自分の浅はかな読解力に恥

作家の門井慶喜さんも、その一人です。私は文芸記者として作家の方々にインタビューする機会が多く、門井さんにも新刊のインタビューでお会いしました。その最中にひょんなことから鷗外好きを明かされました。

「これはもう原稿をお願いするしかない」と考え、後日改めて寄稿を依頼したところ、ご快諾いただき、20年4月12日付朝刊に掲載されました。門井さんが取り上げたのは、『興津弥五右衛門の遺書』と『阿部一族』。いずれも、「殉死」を題材にした短編で、陸軍大将・乃木希典が明治天皇大葬の日に殉死した直後に、鷗外が書き上げた歴史小説として知られています。

記事の掲載時は東京や大阪などに初めて緊急事態宣言が発令され、街から人が消えた時期でした。トイレットペーパーやマスクなどが店の棚から姿を消す光景に不安を覚えた人もたくさんいたはずです。

そのような状況の中、門井さんは鷗外

筆者である詩人の伊藤比呂美さんは「鷗外こそ#MeTooが影も形もなかつた頃にひたすら女を理解し、励ましてくれつづけた人なんですよ」と指摘しています。また、作家の中沢けいさん（20年8月9日付朝刊）は、短編『普請中』の舞台となつた明治維新直後の近代化が進む日本と、五輪の開催に向けて、見慣れない町に変貌していく東京の現在を重ねています。

森鷗外が没後100年を迎える2022年7月9日は、まだ1年も先です。少なくとも、そこまではこの連載を続ける、というのが目標です。「こんなテーマで、あの人には書いてもらいたい」とのアイデアはまだ尽きません。繰り返しになりますが、いかようにも語れる存在であることこそが、鷗外の最大の魅力なのかもしれません。読者の皆さんに、鷗外の知られざる一面を紹介できるよう紙面作りに励みますので、ご愛読の程、どうぞよろしくお願いします。

活動報告



四庫全書



※オンライン・セミナーの動画YouTubeサイト（2021年12月末まで）  
▷ドイツ語: [https://www.youtube.com/watch?v=RB1V1\\_YdKz0](https://www.youtube.com/watch?v=RB1V1_YdKz0)  
▷日本語: [https://www.youtube.com/watch?v=lVn6vM\\_3l-8](https://www.youtube.com/watch?v=lVn6vM_3l-8)

り、ドイツをはじめヨーロッパ各地から250人を超える視聴があり、鷗外が遺したものを受け継ぐことの重さと大切さ、母国である日本ができること、そして国外での鷗外への関心、双方を感じ取ることができた貴重な経験でした。

遠く離れたドイツ・ベルリンと、瞬時に繋がり意見交換ができることに嬉しさを感じる反面、会えないことの歎がゆさもあり、また、ドイツと日本で人の交流ができるようになることを望むばかりです。

コロナ禍での開催でしたが、多くの皆様が参加してくださいましたこの事実は、やはりどのような状況下にあっても学ぶ意欲は無くならないことの証明だと実感しました。2022年に鷗外生誕160年、没後100年を迎え、当館は開館10年となります。先人たちが遺したものを受け継ぎ繋げてゆく、その使命を胸に刻み、日独交流160年の今年、我々も新たな一步を歩み出した

2

作家の門井慶喜さんも、その一人です。私は文芸記者として作家の方々にインタビューする機会が多く、門井さんにも新刊のインタビューでお会いしました。その最中にひょんなことから鷗外好きを明かされました。

「これはもう原稿をお願いするしかない」と考え、後日改めて寄稿を依頼したところ、ご快諾いただき、20年4月12日付朝刊に掲載されました。門井さんが取り上げたのは、『興津弥五右衛門の遺書』と『阿部一族』。いずれも、「殉死」を題材にした短編で、陸軍大将・乃木希典が明治天皇大葬の日に殉死した直後に、鷗外が書き上げた歴史小説として知られています。

記事の掲載時は東京や大阪などに初めて緊急事態宣言が発令され、街から人が消えた時期でした。トイレットペーパーやマスクなどが店の棚から姿を消す光景に不安を覚えた人もたくさんいたはずです。

そのような状況の中、門井さんは鷗外

筆者である詩人の伊藤比呂美さんは「鷗外こそ#MeTooが影も形もなかつた頃にひたすら女を理解し、励ましてくれつづけた人なんですよ」と指摘しています。また、作家の中沢けいさん（20年8月9日付朝刊）は、短編『普請中』の舞台となつた明治維新直後の近代化が進む日本と、五輪の開催に向けて、見慣れない町に変貌していく東京の現在を重ねています。

森鷗外が没後100年を迎える2022年7月9日は、まだ1年も先です。少なくとも、そこまではこの連載を続ける、というのが目標です。「こんなテーマで、あの人には書いてもらいたい」とのアイデアはまだ尽きません。繰り返しになりますが、いかようにも語れる存在であることこそが、鷗外の最大の魅力なのかもしれません。読者の皆さんに、鷗外の知られざる一面を紹介できるよう紙面作りに励みますので、ご愛読の程、どうぞよろしくお願いします。

續集後語

で臨時休館しました。それに伴い、4月3日に開幕した特別展「観潮棲の逸品——鷗外に愛されたものたち」は、9月12日まで会期を延長して開催することとなりました。その後に控えている、コレクション展「生誕110年・没後30年 森類——ペンを執った鷗外の末子」は、9月17日から12月27日までの開催となります。イベント情報など、新型コロナウイルスの感染状況によっては今後も変更が生じる可能性がありますので、ご来館の際にはHPで最新情報ををご確認いただぐか、当館までお問い合わせください。

カフエオレは深煎りコーヒーと同量の牛乳で構成。牛乳のかすかな甘みがありますが、コーヒーの味がしつかり残るカフエオレです。そこに「觀潮樓の逸品」のひとつ、「鷗外自画素焼皿」に描かれたみみずくをモチーフにして、泡立った牛乳の上にココアハウダーでステンシルしました。図案は全身と上半身の2種類用意しました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため一部軽食メニューを休止していましたが、4月から全てのメニューを再開しました。カフェの軽食をお楽しみください



# これからの催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。  
詳細は、チラシやHPをご覧いただか、当館までお問い合わせください。

★応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。



7月6日(火)、7日(水) 11:00 ~ 18:00

## 七タイイベント ◎

会場: 当館前、エントランス 料金: 無料

期間中、エントランスに短冊作成コーナーを設置します。

7月9日(金) 9:00(早朝開館) ~ 17:30(最終入館)

## 鷗外忌記念行事 ◎

鷗外の命日(7月9日)に展覧会を観覧された方に、オリジナルしおりをプレゼントします。

7月23日(金) 11:00 ~ 17:00

文の京ワークショップ/ふみの日イベント

## 「オリンピック、パラリンピックの応援メッセージを書こう」◎

会場: エントランス

8月23日(月) 11:00 ~ 17:00

文の京ワークショップ/ふみの日イベント

## 「ベルリン森鷗外記念館へエアメールを書こう」◎

会場: エントランス

9月23日(木・祝) 11:00 ~ 12:00

文の京ワークショップ 「倉本幸弘の鷗外朗読会1」

朗読: 倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場: 講座室  
定員: 30名 料金: 1,000円(資料費込) 申込締切: 9月6日(月)必着

コレクション展にちなみ、鷗外の三男・類の随筆を朗読頂きます。  
2回目は11月23日(火・祝)の予定です。

7月17日(土) 14:00 ~ 15:30

鷗外忌記念講演会

## 「森鷗外と抒情詩」

講師: 坂井修一氏(歌人、東京大学教授)

会場: 講座室 定員: 30名

料金: 1,000円

申込締切: 7月5日(月)必着

初期の訳詩から、詩歌、翻訳、最晩年の短歌までを具体的に味わいながら、抒情詩人としての鷗外の軌跡をたどります。

9月11日(土) 14:00 ~ / 17:00 ~ (各公演90分程度)

新・觀潮樓歌会/モリキネ落語

## 「三遊亭のらつ好と兼太郎」

出演: 三遊亭らつ好、

三遊亭兼太郎

会場: 講座室

定員: 各回30名

料金: 2,000円

申込締切:

8月28日(土)必着

お申込み時にご希望の時間

時間を明記ください。

※当日は20時まで

開館します。



9月25日(土) 14:00 ~ 15:30

展示関連講演会「鷗外の末子の面影」

講師: 朝井まかて氏(作家、小説『類』著者) 会場: 講座室 定員: 30名

料金: 無料※要展示観覧券(半券可) 申込締切: 9月3日(金)必着

森類を主人公とした小説『類』を刊行した朝井氏に、『類』ご執筆の経緯や同作を通じて伝えたかったことをお話し頂きます。

### ◆上記イベントの申込方法◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。

②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

〈館内にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております〉

○体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。

○咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指の消毒にご協力ください。

新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催や内容の変更をさせていただく場合がございます。  
ご来館の際は、事前にHPをご覧いただき、お電話でお問い合わせください。

### 交通案内



文京区立  
森鷗外記念館  
Mori Ogai Memorial Museum

#### ●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 南口 徒歩15分

#### ●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
- ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
- ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分

※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511

URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00 ~ 18:00 (最終入館は17:30)

休館日 每月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、  
年末年始(12月29日~1月3日)、及び展示替期間、煙草期間等